

「玉井村」

玉井公民館主事 富田忠幸

熊谷市は、「市町村合併の特例に関する法律」に基づき合併を推進しており、新市として発展しようとしています。

玉井村は六十四年前の昭和十六年、大麻生村、久下村と共に熊谷市に編入合併しました。

明治維新前、天領または旗本領に属していた玉井村は、明治以降、廃藩置県、町村会法、郡制発布・廃止等の度重なる法改正により、その都度、編入先を移されました。

維新直後の武蔵県に始まり、大宮県、熊谷県、埼玉県、幡羅郡、大里郡等を転々とし、昭和十六年、熊谷市に編入合併し、今日に至っています。

当時、玉井村は戸数 633、人口は 2,745 人でした。括りは異なりますが、現在は約 6,900 戸、人口約 18,000 人に増加しています。

さて、「玉井」の由来ですが、井殿神社（現玉井神社）の社伝によりますと、

「約千二百年前、桓武天皇の時代に、興福寺の僧、賢景が勅命により東国に旅した。当地に至り両眼を患った。一字を建て、薬師如来を安置し祈願療養した。ある夜、夢に南都春日神社のお告げがあり、井戸を掘りその水で眼を洗った。忽ち両眼平癒した。井戸の脇に春日神社の七薬師を奉納した。井戸を掘ったとき宝玉が二つ出たので、”玉の井”即ち”玉井”と呼ぶようになった」

と伝承されています。なお、この時創建した一字が玉井寺（ぎょくせいじ）とのことです。

また、保元の乱、一の谷の戦で功を成したという武士、玉井四郎の墓と言われる五輪塔も、この玉井寺にあります。

これらは玉井の文化遺産として大切にしたいものです。



玉井四郎墓

(熊谷市公協だより 第 42 号 平成 17 年より)